稲作農家　各位

山武稲作情報　臨時報

（2022年8月29日発行）

山武農業事務所　改良普及課
TEL：0475-54-0226
FAX：0475-52-7914

来作のジャンボタニシ対策始めていますか?

今年は例年に比べ、ジャンボタニシの被害報告が少なくなりました。これは昨年の秋から冬にかけての低温による凍死や今年の春の低温により活動が遅れたことが影響していると思われます。来作も今年のような気象条件とは限らないため、油断をせず、収穫時からできる対策を行いましょう。また、耕種的防除は農薬の使用削減によるコスト低減、環境負荷軽減にも繋がります。

▲ほ場の均平と被害の関係性

ジャンボタニシは、ほ場が深水の状態の時に活動が活発化することが知られています。浅水で管理していても被害にあう場合は、ほ場内に深い部分がある可能性があります。ほ場の均平性を確認しましょう。

多くの被害ほ場では、ほ場の四隅と、ほ場中央に向かうV字型の部分で被害が散見されます(図1)。これは、主にコンバインの急旋回により土の移動が生じた部分であり、深水状態になりやすい箇所となります。

V字型の深水部分については、急旋回を避けた方法で収穫することで、土の移動を抑え、田面の均平度を確保することができます(図2)。

＊点線は刈らずに移動のみ

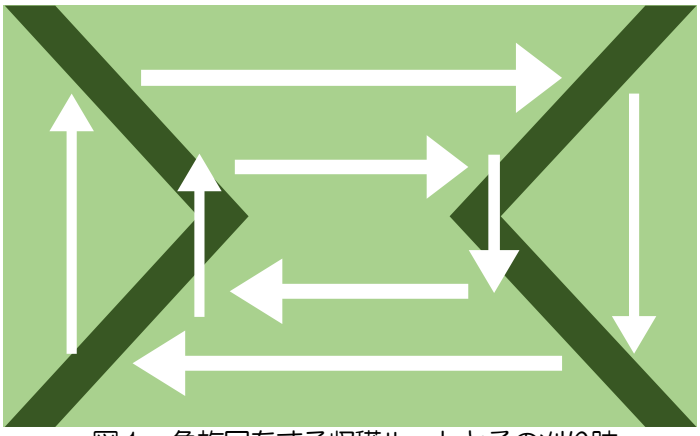

図1　急旋回をする収穫ルートとその刈り跡

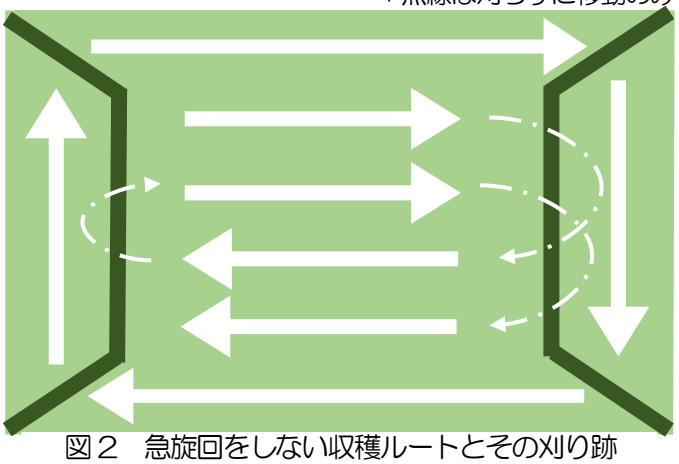

図2　急旋回をしない収穫ルートとその刈り跡

写真1　上空から見た刈り跡　(参照：Google map)

写真2　急旋回をした刈り跡

▲効果的な耕うん方法

ジャンボタニシは秋から冬の間、地中6cm ほどに潜り冬を越します。収穫後に**丁寧な耕うんを複数回**行うことで、地中のジャンボタニシを破砕します。また、冬季の低温にさらすことで、貝の越冬率を下げることができます。**特に１回目の耕うんをゆっくり丁寧に行うことが効果的です（図３）。**

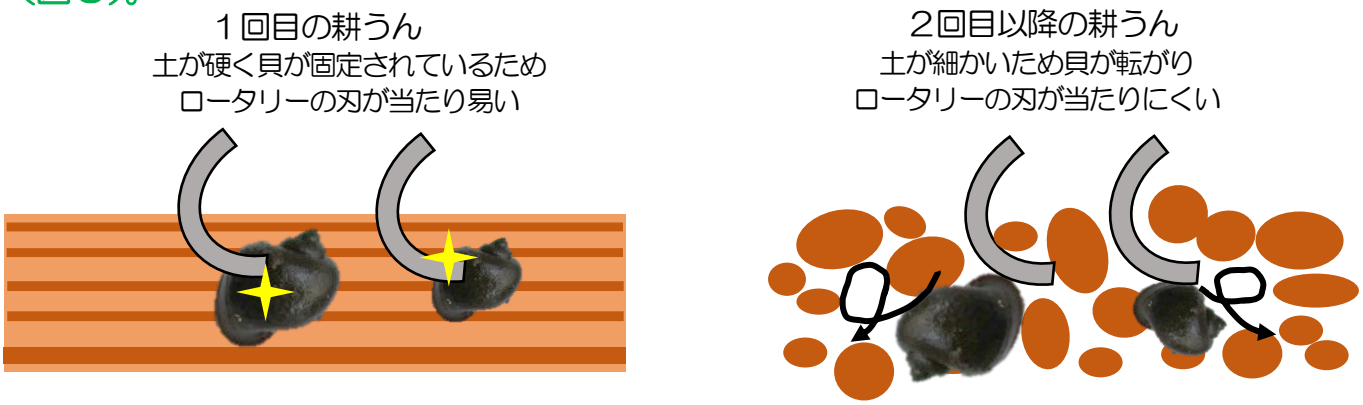

図３　１回目の耕うんをゆっくり丁寧に行うことが効果的な理由

① １回目の耕うん（秋耕）

慣行の作業速度での貝の破砕率は 1/3 未満とかなり低くなっています。破砕率を上げるためには、**作業速度を遅く（1.3～1.5km/h）**し、**ロータリー回転を速く（PTO 回転約 800rpm）**する必要があります。

② ２回目以降の耕うん（冬耕）

冬期に複数回の耕うんを行うことで貝の破砕率が高まります。作業速度は１回目と同様に遅く、ロータリー回転は**さらに速く（PTO 回転約 950rpm）**します。

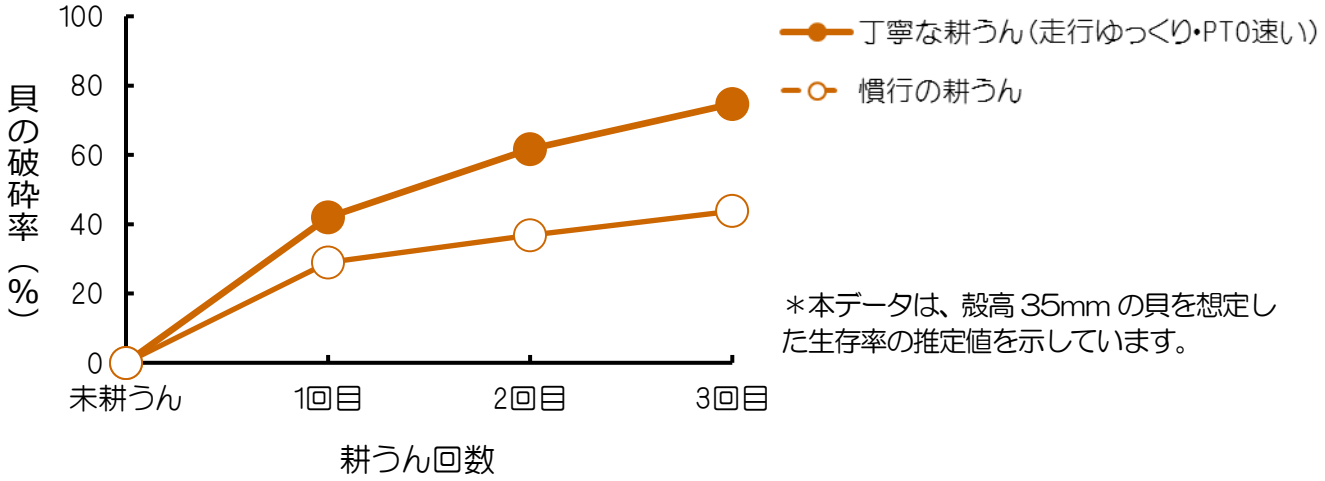

図４　耕うん回数と貝の破砕率の推移

▲ほ場の均平作業

耕うんにより越冬貝数を少なくするとともに、冬期にフロントローダー、トラクターダンプ、レーザーレベラー等で均平を図ることで、被害をさらに軽減させることができます。

写真３　フロントローダー及び、トラクターダンプによる均平作業の様子